

あちまれー！
わったーしんか
(集まれー！私たちの仲間)

兄弟都市交流
あれこれ

50th Anniversary

うちなーぐち×
やまとうぐち

思い満載、 活動多彩

それぞれの
思いをつづる
コメント&
エッセー集

たくさんの方が兄弟都市交流を支えてきました。
市民も市職員も、老いも若きも東奔西走、
汗をかきかきの活動でした。振り返ると、それ自体が貴重な交流。
人と人との、確かなつながりづくりの営みでした。おかげさまで取り組みは広がり、
笑顔いっぱい・多世代が集う交流事業が展開されています。
交流の歩みを振り返ると、その時々にご尽力・ご活躍されたたくさんの方々の
お名前が浮かび上がってきます。本誌の編さんにあたっては、
可能な限り、これらキーパーソンとも言べき方々にご登場いただくよう努めました。
グラビアや寄稿文において、交流の歩み・事業紹介において、そして座談会などなど…
最後に30名あまりの方々と子どもたちが登場します。
交流てんこ盛り、一挙大公開！お楽しみください。

コザ市時代の出会から始まる交流、これからの交流

豊中市のことを初めて知ったのは、1960年代当時の広報紙(コザ市報)の記事。コザ市職員の「豊中学校」での研修報告を読んだのがきっかけだったと思います。

当時のコザ市は、都市計画分野では沖縄県内の先進都市で、住居表示や区画整理事業、住宅地の簡易舗装、下水道の整備、都市緑化等でめざましい成果をあげていました。これらは豊中市での研修と交流の積み重ねによるもの、大きな力となったと聞いています。1972年(昭和47年)の大きな世がわり(施政権返還)の荒波を乗り越えられたのも、豊中市での研修のおかげでしょう。

それから後年、僕はデイゴホテルの社長(故・宮城悟さん)から豊中まつりに誘われ、初めて豊中市を訪れました。そこで衝撃を受けたのが「沖縄音舞台」。過去に沖縄差別の長い歴史がある大阪で、沖縄をテーマにした祭りがあり、しかも豊中市が市民とともに開催していることに、驚きとうれしさと感動を覚えました。一瞬で、昔読んだコザ市報の記憶が鮮やかによみがえりました。忘れられない体験で、以来、毎年のように訪れています。

豊中とコザの出会いから「戦争」と「それぞれ

の戦後史」の姿が視えてきます。そして交流の積み重ねからは、相互理解の大切さと同時に、自らのまちを改めて知るきっかけと深い気づきも与えてくれたと思います。

最後に、これからの交流への提言です。市民・行政・各種団体が参加する「ポータルサイト」の開設/小中学校の兄弟校締結/沖縄全島エイサーまつりでの豊中ブース・市民交流広場の設置/県外友好都市交流担当セクションの設置など。思いつくまま列記しましたが、交流をまちづくりに活かすこと、そして交流の継続のためには世代継承・交代が必要だと思います。児童生徒・保護者との交流など、時代の変化に対応しながら交流主体を育てていく取り組みが求められているのではないのでしょうか。

古堅 宗光 さん

1947年、与那国島生まれ。小学校5年生まで通っていた石川市(現うるま市)・宮森小学校の米軍ジェット機墜落事故で同級生4人を亡くす。1970年に「コザ暴動」に遭遇。その後「コザ暴動を記録する会」を立ち上げ、多くの証言者の聞き取り活動を行う。豊中との交流を報じたコザ市広報紙の記事をきっかけに、豊中市との交流に尽力。沖縄青年会議所副理事長などを歴任。



沖縄市



本荘 泰司 さん

豊中市に入庁し、市民活動課長、都市活力部長、豊中病院事業管理者などを歴任。現在は兵庫県丹波篠山市で農業を営んでいる。

いと 愛しのB級ホテル

「コザ」デイゴホテル。沖縄市滞在中のベースキャンプだ。40代前半で豊中まつりを担当。以来、表敬訪問や沖縄全島エイサーまつり、ピースフルラブ・ロックフェスティバル、プライベートで年に数回はお世話になっていただろうか。県内で奢侈なホテルが開業していく時代、私には、ほんとで唯一の宿になった。

社長は宮城悟。同い年。会話が弾む。当時彼は、基地経済から脱却するため、観光やスポーツ（合宿）誘致に全国を奔走していた。一人勝



ちしない。常に地域全体の発展を願っていた。

そんな彼の超一流のおもてなしを支えに、沖縄市での交流を思う存分深められた。両市にとって最高の理解者であり、推進者の一人だった。

今から10年前、40周年記念式典に彼の姿はなかった。直前に長い闘病生活に終止符を打ったのだった。改めて思う。ありがとう悟さん。

I wish you were here.

ここが私のANOTHER SKY ～沖縄市です。

2009年（平成21年）9月13日、浅利敬一郎市長（当時）の随員職員として初めて、沖縄市に足を踏み入れました。コザ運動公園陸上競技場で観た「沖縄全島エイサーまつり」の演舞に圧倒され、とても感動した記憶が今でも思い起こされます。以降、すっかりコザのまちや出会った人びとに魅了され、訪沖を重ねることに。いつしか、ここが私にとっての“第二の故郷（ふるさと）”となりました。

兄弟都市提携40周年時には、式典の進行や宣言文案の調整などのお手伝いをさせていただきました。今回の半世紀記念事業も人権政策担当職員として、両市の高校生交流や平和に



関するイベントなどに関わらせていただく機会を得たのは、この上ない喜びです。今後も、官民間わずさまざまな世代の方々がバトンをつなぎながら、60年、70年…100年と末永い交流を深めていただくことを願ってやみません。

山口 太一 さん

豊中市市民協働部理事。1991年に豊中市入庁。広報、国民体育大会、社会教育などの業務を経て、秘書課在籍時に兄弟都市提携40周年記念式典の調整業務に従事する。同50周年では、沖縄市平和・男女共同課と協働して実施する、平和に関するパネル展やシンポジウム、両市高校生による平和学習・交流事業などの取り組みに関わっている。

まつり小景（まつりでの交流）

1997年（平成9年）は私にとって特別な年だった。人生ではそうは起こらないことが起こった年。この年の8月に私は初めて第30回豊中まつりの取材で同市を訪れた。行政主体から市民主体のまつりへと移行した最初の年。まつり会場へ入って瞬時に感じたのは暑い、そして目にしたのは一番広い場所に設営された沖縄音舞台のステージ、周囲に並んだ沖縄市の物産に数々の出店。やがてまつりの仕掛人たちに次々と出会う。のちにその交友は27年間にも及ぶこととなる。

両市の違いや課題等の認識、文化の交流を通して両市の発展はもちろんだがまつりやイベント等での息の長い市民交流を望む。そしてそれ

は年々引き継いでいくものであってほしい。

個人的な交友について平たく記したい。沖縄のチムグルを熟知、まつりの中心へ置いた男。まつりには装置があってそれ自体が本岡和巳さんだった。

知恵と知識の雄弁者、かつて同市の副市長に就きながら沖縄物産の呼び込みもこなす頼もしい兄貴分・田中逸郎さん。数々のイベントをこなしてきた生きのいいやつ、福本茂行さん。同まつりの実行委員長を二十数年間務めた大胆と繊細を共存させる芳村幸司さん。さらに吹田義明さん、本荘泰司さん、山口太一さん、津田徹人さん、交友は続く。分析については私は専門家ではないので押しつけはしない、楽しみとして固執したい。



山川 宗司 さん

1952年生まれ。2013年沖縄市役所を定年退職。詩人。第3詩集「少年の日といくつかの夕日」で第三十九回山之口獺賞受賞。日本現代詩人会会員。

兄弟都市交流 永遠に

私が沖縄市の方々とディープな関係になりましたのは、今から40年前の1984年（昭和59年）4月でした。当時、豊中市職員野球部の夏季合宿の行き先に、兄弟都市提携10周年を迎える沖縄市への遠征旅行を計画しまして、沖縄市職員野球部に「僕たち、行くよ」と、電話いたしますと、「僕たち、来るよ」との返答です。今は亡き漫才師の「いくよ・くるよ」ではありませんが、話がかみ合いません。お互いの話をよくよく整理しますと、「行くよ」「来るよ」がヤマトグチとウチナーグチでは真逆の語彙であることが判明し、沖縄市の野球部も期をたがえず、くしくも豊中市野球部との交流試合の遠征計画を立てていることが、確認できました。その後は、「行くよの豊中市です」「来るよの沖縄市です」の枕ことばで始まって、今でこそ大阪弁は吉本新喜劇のおかげで全国区ではありますが、大阪弁と沖縄口との方言の壁をクリアしながら、日程調整が進みました。そして、7月上旬に豊中市職員野球部が沖縄市を2泊3日（初日/沖縄市長表敬訪問、交流試合、歓迎夕食会。二日目/ヤンバル観光、交流会。三日目/南部戦跡巡拝）で、那覇空港から米軍基地の合間を抜けて沖縄市に到着しました。初めての沖縄訪問では、灼熱の太陽の下に育まれた蒼い空と青い海、琉球古典芸能、島唄、島酒など異文化を体験し、その中で一番感動しましたのは「沖縄人の島心」で、温かく優しいおもてなしでした。その3日後には、沖縄市職員野球部が3泊4日（初日/豊中市長表敬訪問、交流試合、歓迎会。二日目/大阪観光、甲子園

本岡 和巳 さん 豊中市に入庁し、文化課主幹、こども未来部長などを歴任。職員野球部としても活動。

豊中まつり2012/沖縄音舞台にて
左：本岡和巳さん
右：元豊中市職員野球部監督の吹田義明さん（2024年2月没）



豊中市



野球見学。三日目/神戸観光、西宮球場野球見学。四日目/豊中市施設見学）で来豊し、兄弟野球が始まりました。その時の戦績は1勝1敗でしたが、10日間のうち7日間にわたる濃厚な文化交流で兄弟同様に仲良くなって、日本シリーズのようにどちらかが4勝するまで交流試合をしようという提案があり、その後は2、3年間隔での交互の訪問交流試合が続き、ただ今は先立つ兄弟もあって3勝3敗2分けて、いまだに雌雄の決着はついていません。

当初の兄弟都市担当は秘書課でしたが、1996年（平成8年）に文化課へ事務分掌移管され、私は担当することになりました。また同年に、新生豊中まつりのプロジェクトチームの一員として、豊中まつり97での沖縄ひろばイベントを担当させていただく機会を得ました。コンセプトは、「琉球文化の紹介と基地のない平和な島の実現・おっきなわ」でした。豊中市職員野球部沖縄市訪問から開催に至る間に、度々お邪魔させていただきましてお力添えをいただきました沖縄市の皆さんとのエピソードを列記しますと紙面が足りません。40年も経過してしまして、思い出せない方も多々ありますが、敬称略・順不同で紹介させていただきます。

▶沖縄市長・新川秀清/仲宗根正和/東門美津子、助役・嘉陽榮憲、収入役・砂川正男、文化課・上地 栄/今郁義/町田ノリ子、永岡稚子、中根勉、水道局・伊禮弘、野球部・我謝孟吉/東江清雄/島袋良治/仲宗根弘光、元コザ市長・大山朝常、元コザ市助役・玉山憲栄、美里焼・宮城秀雄/愛子、デイゴホテル・宮城タカ子/悟、チャンプルー王国・照屋林助、笑築過激団・玉城満、ディグ音楽事務所・知名定男、宮里榮弘天芸団・宮里榮弘/瞳、なんた浜・饒辺愛子/比嘉マチ子、ACO沖縄・下山 久/平良とみ、沖縄県秘書課、沖縄県物産振興会、沖縄県大阪事務所、沖縄観光コンベンションビューロー、沖縄市観光協会・崎浜秀嗣、沖縄文化協会・城間喜宏/親川正治、美里ツーリスト・翁長良健、PA音楽事務所・徳山義広etc.

皆さん、お力添えをいただきまして、本当にありがとうございました。

兄弟都市交流に関する職員研究

とよなか都市創造研究所と沖縄市政策調整室による提携40周年事業として、両市の若手職員が主体的に将来の都市交流を調査研究する取り組みが行われました。

研究員が相互の都市を訪問して行われた研究会議は、若い職員が楽しそうに都市課題を語り合い、報告書作成では苦労を共にする姿を懐かしく思い出します。

報告書では、交流50周年に向けての提言がなされておりますが、いまだ達成に至らないことを踏まえると、高い志による研究成果であったと感じております。

当時、研究員が探し出した資料からコザ市から豊中学校へ派遣された職員の記録や交流の発端となった霊石の写真が確認できたこと



沖縄市

は、私にとって感動的な発見でした。

あれから10年を経て、中堅職員に育った研究員が両市の新たな歴史を刻む担い手となり、交流が深まることを期待しております。

兼本 正人 さん

政策調整室長：～2014年7月（40周年記念事業実施）
経済文化部次長：2014年8月～2019年3月（人事異動後も継続担当）
教育委員会 教育部長：2019年4月～（現職）

沖縄市民が豊中市で躍動！ 市民ミュージカルを初上演

2014年（平成26年）8月、兄弟都市提携40周年を記念して、豊中市立ローズ文化ホールで「コザ物語」を上演しました。戦後、孤児となった多くのこどもたちを支え、「沖縄社会福祉の母」と称された島マスさん。激動の時代をしたたかにしなやかに生きた彼女とこどもたちを描いた市民ミュージカル初の県外公演でした。

満席の観客からは「躍動する踊りや歌に感動した」「笑いあり涙ありの物語に命と平和の尊さを認識した」「沖縄市の戦後の歩みがよく理解できた」などの声が寄せられました。多くの方にご覧いただき舞台が成功したのも、豊中市の皆さまの全面協力のおかげです。改めて感謝申し上げます。



沖縄市

44名の出演者は様々な化学反応を起こし成長しました。そのほとんどを占めた小中学生が成人した今、豊中市が兄弟都市であることを誇りに、今後も交流を続けていきたいと思います。

天願 亮 さん

1971年コザ市生まれ。沖縄市役所健康福祉部ちゅういじ課長。兄弟都市提携40周年は文化観光課長として市民ミュージカルや記念式典等を担当。



豊中市

1997年「新生豊中まつり」誕生

1996年（平成8年）、豊中まつり見直しプロジェクトがスタートしました。プロジェクトの座長を拝命し、多くの方々の協力を得ながら1年間に及ぶ豊中まつりの見直しをスタート。旧来の豊中まつりを検証しながら、もっと魅力ある豊中まつりを創れないかとプロジェクトメンバーと話し合う日々。いくら考えても豊中市としてのイベントコンテンツが見えてこない毎日が続く中、沖縄市が兄弟都市だということを知らされました。沖縄民謡はもちろん、沖縄ポップスも全国で注目され始

福本 茂行 さん

豊中市在住。龍谷大学経済学部卒業。企画イベントの制作会社を経営する傍らNPO法人ひょうご県防災教育振興協会を設立し、全国で防災教育の啓蒙活動を行う。1996年豊中まつり見直しプロジェクトの座長を拝命し、新生豊中まつりの誕生に携わり現在に至る。

めた頃で、まさにコンテンツの宝庫、すぐに役所の方と沖縄市へ飛びました。それが私と沖縄、そして豊中まつりと沖縄の付き合いの始まりです。さまざまな方々との出会いと協力の中で紆余曲折を経て1997年（平成9年）、新生豊中まつりは誕生しました。人と文化がふれあうまつりをテーマに、「市民がつくる市民のまつり」として、多くの市民ボランティアの手で考え開催される稀有な市民まつりとして、毎年20万人もの皆さんに愛される市民まつりに育ってくれました。ここまでの道のりを共に歩んでくださった豊中市、沖縄市の皆さんに改めて感謝申し上げます。

つないでいきたい兄弟都市交流

初めてコザを訪れたのは、兄弟都市提携40周年記念の「市民交流ツアー」の下見でした。当時、初めての沖縄出張に浮かれていた私はTシャツにトロピカルな短パン姿で沖縄市長への表敬訪問へ。あの失敗から10年。笑顔で当時を振り返ってくれる沖縄市観光物産振興協会や沖縄市役所の方々、そして個性的なコザの皆様との交流を通じて、泡盛の飲み方から米軍基地に対する考えまで、地域に根づく文化を知り、自分事のようにそこで起きる問題や背景に関心が持てるようになりました。この貴重な体験ができたのは、「兄弟都市交流」が形式ではなく、両市の先輩方の信頼関係に基づいた本物の交流が続いているおかげだと感じます。



豊中市

このご縁に感謝し、私も次の誰かにつなげるよう、これからも長く楽しく兄弟都市交流を続けていきたいです（写真はコザのお父さん・中根勉さんと）。

下中 絵里加 さん

2012年に豊中まつり事務局で働き始めたことをきっかけに沖縄市との交流が始まる。退職後もボランティアとして関わり、会場で沖縄市の皆さんと会うことを楽しみにしている。コザへは仕事や遊びで10回ほど。三線歴6年。

豊中市に学び、コザ市から沖縄市へ… これからの50年を想う。

1970年（昭和45年）、米軍統治下での不満が爆発して起こるべくして起こった「コザ暴動」。そんな年に生まれた自身のことをコザ暴動っ子と言う。

1972年（昭和47年）に本土復帰の岐路に立たされた当時の市長が豊中市と繋がり、交流が始まったと聞いている。本土の行政と沖縄の行政が変わり1974年（昭和49年）に沖縄市が誕生した。本当の意味のチャンプルー文化が始まったと言っても過言ではない。豊中市との繋がりが無ければ今の沖縄市は全く別物になっていたのではと思う。

僕らのアイデンティティーを継続できるのはあなた方のお陰です。数年前に豊中のコザが好き過ぎる男性と偶然知り合い意気投合したのを今

沖縄市

でも覚えている。彼からコザと豊中との関係を教えてもらった…知らなかった自分が恥ずかしくもあり、改めてインプットできた嬉しさもあり…

今後も熱い繋がりを継続してこれからの50年を作っていく!と強く思う。

神山 繁 さん

1970年生まれのコザ暴動っ子。アートと街をこよなく愛している50代。沖縄市で飲食店やホテル、TV番組やコザを舞台にした映画など制作する。
株式会社ファンファーレ・ジャパン 取締役プロデューサー。

沖縄市・豊中市兄弟都市 提携40周年市民交流の思い出

豊中市・沖縄市兄弟都市提携50周年おめでとうございます。

40周年の際の、豊中まつり前夜の大交流会では、沖縄市の青年会エイサーと市民交流等々沖縄から多くの参加者が居たにも関わらず、出発日の沖縄は台風…私たちの1便は無事に飛んだのに、その後の飛行機は、遅延、欠航等々トラブルがあり、いつまで待っても市民のみなさん青年会も着かないという波乱万丈で思い出深い豊中まつりとなりました。

その年の秋には豊中市から100名の市民交流ツアーを企画実施していただき、音市場での大交流会を行いました。ゲート通りで遊ぶコザの

沖縄市

おじ様と豊中の可愛い女子達、中の町の民謡居酒屋で遊ぶコザの青年と豊中のお姉様方などとても素敵な市民交流の光景でした。

今年は記念すべき50周年、この記念の年にまた素晴らしい両市の思い出が作れる事を楽しみにしております。

古田 和江 さん

2009年 沖縄市観光物産振興協会コザインフォメーションセンターに入職。誘客事業担当として、兄弟・姉妹都市を中心に県内外からの誘客活動に従事。

祝 交流50周年 友情と信頼

豊中市・沖縄市兄弟都市交流50周年おめでとうございます。

私たちRFC（緑地フットボールクラブ）は子どもたちに「生きる力」を身に付けてほしいという思いで活動しています。また家庭・学校・地域との連携の中で子どもたちを支えることを大切に考えています。

RFCの沖縄市との交流は1998年（平成10年）3月27日～3月30日の3泊4日の遠征行事から始まり、今年2024年（令和6年）3月で27年間の相互交流となりました。当初から行政や諸団体の多くの方々のご支援・ご協力をいただきながら進めてきました。誠にありがとうございます。沖縄市の交流チームはF.C.泡瀬、美原クラ

ブ、美東FCの3チームです。子どもたちは異なる文化を持つ方々との交流を重ねる中でお互いの違いや良さを認め合い、ホームステイで観光旅行では味わうことのできない体験もしております。これからも皆さま方の温かい声援をいただきながら沖縄の人たちとの友情と絆を深めるこの事業を次の世代へとつないでいきたいと思っています。

RFC会長
溝口 章仁 さん



TOYONAKA CITY



6年 吳 獅温さん

6年 新井 翔大さん

6年 桃山 太陽さん

6年 松村 哲さん

6年 中西 蓮琉さん

6年 吉原 綾吾さん

6年 篠崎 楓斗さん

6年 中島 輝さん

沖縄に行けたこと、沖縄にも友達ができ、とてもうれしいです。

沖縄の子たちが皆明るくてすぐに友達になりました。また会いたいです。

沖縄と交流して最初は全く知らない初めて会った人たちだったけど、サッカーをしていたら自然と仲良くできるようになったことがいいと思いました。

ホストファミリーの雰囲気が出て楽しかったです。

沖縄交流をして、沖縄の子たちと友達になって、バスケの試合も一緒に観れて、すごく楽しい経験をしたのでまた行きたいなと思いました。

ホームステイ先で沖縄の文化や習慣を学ぶことができました。

去年僕の家、ホームステイした友達の家に、次は僕が泊まりました！1年ぶりに会えてとてもうれしかったです！

ホストファミリーみんなが優しくしてくれて、とても緊張していたけど楽しく過ごすことができました。

RFC（緑地フットボールクラブ）

想いを繋いだパスを次世代へ

豊中市×沖縄市「兄弟都市宣言」から50年を迎えたこと、心より祝い申し上げます。

20数年前、私はF.C. 泡瀬の部員として、豊中市との少年サッカーチーム同士の交流事業に参加しました。サッカーをはじめとした全ての交流が最高に楽しかった思い出です。

ホームステイでお世話になった田中家と大貴君とは、高校を卒業するまで文通が続き、お互いの近況を伝え合うほどの仲までとなりました。

そして2022年（令和4年）、F.C. 泡瀬のコーチ兼保護者として同事業に参加できた時にはとても感慨深い気持ちになった一方で、この事業を遂行することの難しさを強く感じました。

小学生の時に、F.C. 泡瀬の部員として豊中市・沖縄市少年サッカーチーム交流事業に参加。その後、2022年にF.C. 泡瀬のコーチ兼保護者として同事業に参加し、以降事業に携わっている。

この事業の成功は、RFCの溝口会長とF.C. 泡瀬の崎浜監督という、子どもたちの指導に情熱を燃やし続けるお二方の存在や、多くの方々の協力によって達成できたのだと感じています。

私は部員、指導者、保護者としてこの事業に関われたことに深く感謝しております。今度は私たち世代が、子どもたちに成長する機会と環境を提供できるよう、恩師たちのように情熱を燃やし続けていきたいと思っています。

宇根 良併 さん



OKINAWA CITY



伊舎堂 模斗さん

大阪の人達が沖縄に来て一緒にプレーしたり、動物園へ行ったり、イベントを楽しんだりしました。今後の豊中交流では、豊中の人と同じチームとなって大会に出てみたいです。

F.C. 泡瀬



山根 颯祐さん

豊中交流会では、すごく特別な時間を過ごしました。サッカーの試合だけではなく、毎日一緒に寝たり、一緒に朝早く起きて遊んだり、夜どおし色々なことを話したりしてRFCのチームのみんなとはとてもいい思い出ができました。



豊濱 劉斗さん

大阪府豊中市との交流の思い出は、言葉が少し違ったのとまどったけど、沖縄こどもの国へ行ったりキングスと一緒にいたりBBQなどで、一緒にすごすことでとても友情が深まったことです。きょうな思い出です!!



池原 祐大さん

大阪府豊中市のRFCと交流会がありました。バーベキューをしたり、沖縄こどもの国と沖縄アリーナでキングスのバスケット観戦をしたりして大阪の人と交流ができました。とても楽しかったです。



美原クラブ

なかなか、他県の同学年と交流する機会はないので交流サッカー大会やホームステイをとおして貴重な経験ができました。交流サッカー大会が一日のため物足りなく、大会を二日にし更に交流を深めたいです。豊中での再会が楽しみです。

美東FC



大城 瑠心さん

豊中交流では、豊中の子がホームステイしたり、みんなと海でBBQをしたりして楽しかったです。今後の交流は、チームで泊まるサッカー合宿をしたりして、仲を深められる交流をしていきたいです。



奥辺 永翔さん

エイサーがつないだ奇跡

私は14歳の時に兵庫県尼崎市でエイサーを始めました。その後16歳の時に沖縄全島エイサーまつりに出演するため、沖縄市の諸見里青年会さんと練習をする機会がありました。その時たくさんの人たちから「エイサーの歴史」「踊りの意味」「人とのつながりの大切さ」を教えてもらい、私にとって大きな学びになりました。その貴重な経験を豊優会の中で伝え続けています。

このように豊優会の踊りの



豊中市

ルーツは諸見里青年会さんであり、豊中市という限られた地域で活動をしていく中で沖縄市とつながりを持てたことは奇跡です。

現在は関西や愛知のエイサー団体と交流がありますが、今後は演舞を通してもっと多くの地域のエイサー団体とも交流を広げたいと思っています。

また沖縄全島エイサーまつりでのお出演を通して、豊中市と沖縄市が兄弟都市であることを沖縄の皆さんにも知ってもらえきっかけにしたいです。

大城 透 さん 豊中エイサー豊優会 会長。

豊中エイサー豊優会

1999年発足。豊中まつりでエイサーに触れたボランティアメンバーが中心となり「豊中エイサー豊優会」を立ち上げ、今年で25周年を迎える。メンバーは子どもから大人まで約30名。地域のお祭りや福祉施設、結婚式、沖縄系のイベント等での演舞や、太鼓体験を通して地域の皆さんと交流している。

「まつり」で築いた財産と気づいた想い

大規模で大にぎわいな「豊中まつり」の、我々もその一部となって演奏させていただいたことは、5年以上経った今も変わらず、大変に名誉なことと胸に刻まれています。炎天下、限られた日陰に集まって、たくさんの方々が熱心に耳を傾けてくださった光景は、忘れられない喜びです。「ピースフルラブ・ロックフェスティバル」では、ライブ中の興奮はもちろん、終演直後にいただいたスタンディングオベーション、関係者の方々に本当に良くしていただいたこと等、全てが印象深い財産です。豊中まつりをきっかけに、改めて気付かされた気持ちは、まさしく沖縄言葉の「いちゃりばちョーデー（出会えば皆、兄弟）」です。平和を願う両市民の想いから始まった兄弟都



豊中市

市の素晴らしい交流が、時代をも越えていつまでも、ますます深い結び付きとなられることを心から期待します。

ソウルソウス 中西 大介 さん

2012年結成。Vo&Key中西大介とGt&Cho安川真也による、オオサカン・ソウル・ユニット。現在までに4枚のミニアルバムと2枚のシングル、コラボによる別名義のミニアルバム1枚を自主リリース。「ピースフルラブ・ロックフェスティバル2018」出演。

豊優会と僕のつながり

豊優会代表の大城透くんを知ったのは2001年（平成13年）頃で、僕が当時諸見里青年会の会長を務めていた時でした。「大阪豊中で諸見里のエイサーを踊っています!」。豊優会のエイサーの基礎は、諸見里エイサーでした。「大阪での反応はどうなの?」気になる僕の質問に、「ものすごく評判が良くて、毎週イベント出演で忙しいですよ!」と、楽しそうに話す彼を、当時、青年会長として会の運営の難しさに直面していた僕は、少しうらやましく感じたのを覚えています。それから交流が始まり、現在では、縁あって仕事で訪れるようになった豊中まつりで毎年顔を合わせ、お互いの生存確認をしている関係が続いています。

沖縄市



僕はすでに青年会OBですが、現在でも現役で元気に踊る一つ年下の彼に、「そろそろ休んだら?」と言いつつも実は、また少しうらやましく思っているのです。

花城 康貴 さん

沖縄市観光物産振興協会事務局次長。2001年～2003年の間、諸見里青年会会長を務める。

祝 50周年 さらに実りを願って

このたびは、50周年という輝かしい歴史の節目を迎えたことお祝い申し上げます。遠く離れた二つの都市が友好関係を築いてこられたのは、両市の友好と信頼を深め、絆を創りあげてこられた先人たちの努力と敬意を表します。お互いを尊重し思い合う気持ちと、海を越えた友情を大切にしたいという両市民の兄弟都市交流の発展を支えてくださった皆さまがいての今日だと思います。私自身、豊中まつりを通してたくさんの沖縄を知ってもらい、このような素晴らしい記念に出演させていただくことに感謝しています。豊中まつりでは、沖縄の伝統ある唄三線やエイサーをはじめ、出演者と来場客で会場一帯が沖縄になっている光景に毎回感動させられます。この50年の間、半世紀にわたって築か



れたこの絆は何にも代え難い素晴らしい財産だと思います。新たな50年に向けて次世代がユイマールの心を持ち友情を深め合い、さらに実り多きものとなることを願っています。改めて50周年おめでとうございます!

沖縄市

与那覇 歩 さん

「与那国島」出身。幼い頃から民謡・演歌好きで、八重山古典民謡を受賞するなど島の芸能を学ぶ。2004年からの6年間、ネーネーズ3代目として全国各地で活動。現在は沖縄民謡から、八重山民謡、与那国の島唄まで幅広く歌い上げるソロ歌手として国内外で活躍。豊中まつり沖縄音楽台(2018,19,22,23,24)に出演。



私と豊中との始まり

私の交流のスタートは2013年（平成25年）頃か、翌年に沖縄市市制施行40周年と豊中市兄弟都市提携40周年を迎えることから、豊中市をどのように迎えるか論議することが多くなっていた。その結果、行政・民間の協力のもとで「豊中モアイ」が発足した。

酒の席の話題によく出てくる豊中市だが、私にとってそこまで関心事ではなかった。そこにまちづくりの大好きな先輩の古堅さんが私に質問した。「貞夫は何回豊中市に行った？」私は「…まだ行ったことはない。」と答えたと「え～！まさか1回もないのか～！」と驚かれた。

そしてもう一人、豊中市との交流に長年行政側から君臨してきた同級生の中根からも「お前、来年は豊中交流40周年だぞ、豊中まつりに行かん」との強い圧力と勧めにより、私はその年の豊中まつりに参加することになった。

8月になり初めて豊中まつりに参加したが、驚きの暑さで人も気温も沸騰していた。ピースフルラブ・ロックフェスティバル出演をかけたバンドが腕を競い、熱きファンたちが夢中に踊ってい

る。会場全体が沖縄に染まりコザ大好き人間が集まる一大イベントなのだ。ここから始まった豊中の皆さんとの交流は私にとって忘れられない一生の宝物となった。

あれから10年あまりが過ぎ、両市の交流は以前にも増し縁はさらに深まっていると感じる。これは、互いの文化や歴史、人々を尊重できる両市民の力量あってこそだと思う。

また、豊中の皆さんの度重なる場面での挨拶はいつでも、オチもノリツッコミもありチームワークの良さが際立つ。そのような豊中人の機転も学びつつ、いつの日か私達の交流が若い人達へ受け継がれ、企業交流やスタートアップ事業、さらに産業へ発展することを期待したい。

沖縄市



大城 貞夫 さん

一般社団法人 沖縄市観光物産振興協会コザまちあるきガイド、株式会社サイン沖縄取締役会長、沖縄広告美術協同組合顧問、全技連看板マイスター。

沖縄市への人事派遣を経験して～はじめての「沖縄学校」～

2023年（令和5年）3月31日に、私は豊中市役所からの人事交流職員として沖縄市役所に到着しました。さっそく勤務後に歓迎会を開いていただけたことで、沖縄市での新居に向かうこともなく一番街商店街に向かったと記憶しています。

場所を移動するたび新たに沖縄市職員の方々と出会い、夜遅くまで楽しいひと時を過ごしました。新たな土地で過ごすことへの不安が、希望と期待へと変わった瞬間でした。

沖縄市役所では、交流事業だけでなく、沖縄全島エイサーまつりの運営など様々な業務を経験できています。かつてコザ市職員が豊中市で学んだ「豊中学校」のように、私自身も「沖縄学校」での経験をおして、自分自身の成長を感じています。

沖縄市

久保 貴大 さん

2019年豊中市役所へ入庁しこども政策課へ配属。2023年に人事交流として沖縄市文化芸術課へ出向。



豊中市

縁と紡ぎつないだ交流

出張で大阪を訪れた翌週に私の豊中市への出向が決まった。その出張が私にとって人生初の大阪であり、大阪国際空港を利用したため、初めての豊中でもあった。知らない土地。なじみのない言葉。不安はあったが、このタイミングに縁を感じ、前向きに豊中へ向かうことができた。豊中に来てからは両市の様々な違いを感じるなか、何よりも驚き、そして感動したのは「沖縄市」を愛する市民が多くいらっしゃることである。沖縄市出身の私よりもコザのまちに詳しい方が何人もおられ、それぞれにコザへの思いを語って聞かせてくれた。50周年を迎える兄弟都市交流は、このような皆さまが紡ぎつないでくれて本

日があることを痛感した。執筆時点で豊中に1年4か月住んでいる私は大阪弁の影響を受けつつあるが、この人事交流で吸収したことを沖縄市へ持ち帰り、今後の交流を紡ぎつなぐ一員として尽力したい。

喜屋武 盛智 さん

沖縄市生まれ沖縄市育ち。2019年に沖縄市に入庁し、こども企画課、商工振興課を経て、2023年に人事交流として豊中市魅力文化創造課へ出向。



市民レベルの交流を多くの分野に

兄弟都市提携50周年を心からお祝い申し上げます。私たち法人は、今日までの両市の交流の歴史とその確かな歩みを土台に、市民レベルにその友好を広げ交流を深化させようと2018年（平成30年）に発足しました。

この間の活動を少し振り返りますと、当初、沖縄市の工芸作家を迎えての工芸作品展示販売や親子向け工芸体験教室など、沖縄市の魅力に触れるイベントで交流をスタートさせ、その売上げの一部を大阪北部地震に見舞われた当市にご寄付いただきました。その後のコロナ禍では、支援の一助として、沖縄市の介護事業者へマスクを寄贈。また、両市図書館に設置された兄弟都市文庫に、相互に縁のある書籍を5年間にわたり寄贈させていただき事業は4年目の現在、111冊の書籍数を数えます。さらに、「とよなかシティリレーマラソン」に沖縄市児童を招待し、スポーツを通じた両市児童の交流を深めるなど、兄弟の絆を強めることができたと思っております。

今日までの活動に深いご理解とご協力をいただきました両市の行政、各団体、市民の皆さまに心から感謝しております。とりわけ、当法人の立ち

上げに際しては、おきなわ多文化共生のまちづくり振興会の喜納高宏さん、京子さん。その喜納さんをご紹介いただいた、デイゴホテル社長の宮城悟さん（故人）、沖縄市観光物産振興協会やコザ工芸館ふんどうの皆さまには、さまざまアドバイスとご支援をいただきました。

50周年という大きな節目を迎えるにあたって盛大にお祝いをすべく、記念事業を11月に実施予定です。私たちの活動は小さな一歩の積み重ねですが、この兄弟都市交流を着実に次世代につなげ、発展させていきたいと思っています。



豊中市（写真左）と沖縄市（写真右）の図書館に設けられている兄弟都市文庫



豊中市から沖縄こどもの国に寄贈された少年の像「合奏」の修復事業を行い、豊中学校の1期生や両市の市議会議員など関係者が見守る中、除幕式を行いました（2019年11月20日）。

特定非営利活動法人 とよなかおきなわ応援団

2018年発足。豊中・沖縄両市民およびその周辺市民に向けて、教育・文化・スポーツ・芸能・福祉などの多岐にわたる事業を行い、真の市民レベルでの交流という公益性の高い非営利活動を実現するため活動。



豊中市

大町 裕次 さん

特定非営利活動法人
とよなかおきなわ応援団 理事長
元豊中市議会議員。

40周年記念式典と豊中まつりがきっかけで結婚

沖縄市と豊中市の交流を知ったのは、新規採用職員研修だったと思う。遠い沖縄の話聞いたあと、同期と上った第一庁舎の屋上で、私は使命感に燃えていた。私は豊中市民を愛していた。地域の課題に、市民が立ち上がり行動してきた歴史、行政との協働。沖縄市との交流を繋いできた豊中まつりも、市民がつくってきたもの。兄弟都市提携40周年の際には、岡町商店街で東青年会がエイサー道ジュネーを披露。見ていたおばちゃんたちが感動のあまり涙ぐんで何度もお礼を言っていた。戦死者を悼む霊石と仏桑華をきっかけに始まった交流は、これからも両市の市民が平和と文化を伝え続けていくのだと思う。二人の子どもたちがもう少し大きくなったら、お父さんとお母さんは平和だから出会えた

沖縄市



んだよと話したい。そして私も市民の一人として、平和を伝える交流に参加したい。

太田 青子 さん

2010年4月 豊中市役所入職 市立豊中病院事務局配属
2014年4月 広報広聴課へ異動
11月 豊中市・沖縄市兄弟都市40周年記念式典へ参加
2015年4月 豊中市職員組合専従
9月末 豊中市役所を退職し、沖縄市へ転居
11月 沖縄市職員 太田周作と結婚
2人の子どもの生まれ、豊中での経験を活かし民間企業で元気に働いています。

兄弟都市提携50周年記念ロゴマークに込めた思い

デザイン意図

両市のキャラクターを中心部に配置。両市ともに音楽のまちを謳っていることから、平和への想いと50年続いた絆を五線譜を活用したハートマークのデザインで表しています。その五線譜を虹のようなカラーデザインにすることで、多彩な交流を表現し、これからも「きょうだい」のように思いやる気持ちで築いた絆を、両市で音楽を奏できるように次世代の若者や子どもたちへ繋いでいくという気持ちを込めました。

デザイン決定までの経緯

このデザインは2023年（令和5年）に始まった両市職員の人事交流によって派遣された職員（92ページ参照）が中心となって、デザイン案を作成しました。50周年テーマ「出会えば兄弟（いちゃりばちゅー）～友好の絆を次世代へ～」と共に兄弟都市提携50周年を彩るものとして、さまざまな事業で活用されております。

